

グループホーム 小町

運営推進会議等開催報告書

開催日時	令和 3年 2月 26日(金)	14時 00分~時 分
参加者	議 題	
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	0名	3 利用者状況報告
市職員	0名	4 その他(身体拘束適正化検討委員会)
地域包括支援センター職員	0名	5 次回会議開催予定日
事業所	0名	
会 議 録		
<p>☆新型コロナウイルス感染拡大防止対策について</p> <p>1/14 愛知県で緊急事態宣言が再発令され、グループホーム小町では1/15より面会を禁止させていただくことになりました。面会禁止の期間について、緊急事態宣言の解除あるいは延長に合わせて対応していく予定です。厳しい状況ですが、感染拡大を防ぐため職員一人一人が危機感を共有し改めて感染拡大防止を徹底していきます。</p> <p>・中止に伴い意見照会を行いました。</p> <p>意見照会(家族様 0名 民生委員 1名 瀬戸市役所高齢福祉課 1名 地域包括支援事業者 1名 地域住民代表 2名)</p> <p>→①「身体拘束を行わないようにするための工夫=介護の基本を見直すこと」なのかと思います。利用者の立場に立ったいい介護ができるといいですね。</p> <p>(地域包括支援事業者)</p> <p>②職員内で身体拘束について話し合った内容や研修内容などがあれば教えていただければと思います。また日頃身体拘束防止に向けて職員間で気を付けていることがありましたら教えてください。(瀬戸市市役所高齢福祉課)等の意見がありました。</p> <p>③スタッフの皆様、入居者の皆様に接しられ敬愛されておられる事と思います。こんな時勢の時、大変な生活環境の中お疲れ様です。ご自身のお身に気を付けて行動されますことお祈り申し上げます。</p> <p>④いつも丁寧にご報告いただきありがとうございます。</p> <p>⑤コロナ禍の中、利用者の方の健康に気を付けながら今までの行事内容、活動も状況をみながら続けてみえることに敬服いたします。大変な状況がまだまだ</p>		

続きますが、お体に気を付けてください。

- ・ご意見に対する返答

→②身体拘束を行わないケアを実践するため、2か月に1回身体拘束適正化検討委員会を開催しています。毎月行う施設会議では身体拘束の有無や拘束につながっていないかについて話し合い、職員間で不適切ケアや気になる言動についてはその都度注意しあえる関係を心掛けています。

テーマ

2020.6（身体拘束をせずに行うケア「3つの原則」）

2020.8（身体拘束廃止のためにまずなすべきこと「5つの方針」）

2020.10（緊急やむを得ない場合の対応はどうすればいいのか）

2020.12（スピーチロックとは）

2021.2（身体拘束をなくすための車いすやいす）

1. 行事報告について

1月

- ・元日

→元日は、皆さんで新年のあいさつを交わし、昼食におせち料理を食べておやつに和菓子をいただいてゆっくりとお正月気分を味わいました。固い物が食べにくい利用者様には、歯茎で噛める軟らかさに仕上げている柔らかおせちを提供しています。食材に応じて細かく切ったりつぶしたりと工夫することで、ムセもなく美味しく食べられていました。

- ・初詣

→毎年行っている八王子神社への初詣について、今年は残念ながら延期となりました。いつもとは違い、なかなか多くの人と行事をご一緒することが叶いませんが、その分小町の中で行事を楽しみ季節の節目やリズムを感じていく工夫をしたいと思っています。

- ・お誕生日会（2名）

→1/22、85歳女性のお誕生日のお祝いに好物のお寿司弁当を用意してお祝いしました。今年はコロナウイルス感染予防のため外食が行えませんでした。お持ち帰り弁当で外食気分を味わっていただきました。

83歳男性のお誕生日は、糖分制限はありますが甘いもの好きな利用者様のために低糖質ケーキを用意してお祝いしました。

おやつには皆さんでチョコレートケーキを食べて、1月生まれの利用者様のお誕生日をお祝いしました。

2月

・節分の豆まき

→2/15、少し遅くなりましたが、1年の無病息災を願いながら皆様で豆まきを行い、昼食に利用者さんと一緒に恵方巻を手作りしました。また、鬼に仮装した職員に豆をまいて季節の行事を感じていただきました。

・お誕生日会

→2/3、利用者様2名のお誕生日をお祝いしました。

・訪問理美容

→2月、愛知県で緊急事態宣言が延長されたため訪問を延期しています。

2. 今後の行事予定

3/3 ひな祭り

3/中旬 梅見

4/上旬 お花見

3. 利用者状況報告

・利用者様 9名利用（男性1名&女性8名）

・平均年齢 86.1歳 平均要介護度 2.6

2021.2.20 現在

・新規利用者様が2021.2.7に入所されました。

80歳代女性 要介護度3 脳梗塞後遺症のため左上下肢に麻痺がみられます。

4. その他

身体拘束適正化検討委員会より

「身体拘束をなくすための車いすやいす」

・寝たきり老人ゼロ作戦の推進などにより、日中ベッドで寝たきりになっている高齢者は激減したが、一方で車椅子に座っている高齢者を多く見かけるようになった。ところが、介護保険施設等で使用されている車椅子の多くは短距離の「移動」には便利だが「座る」ための用具としては十分な機能を持つもので

はない。30分以上同じ姿勢で座り続けることは困難であり、人によっては苦痛を伴う場合もある。そのため、立てる人は立ち上がってその車いすから離れようとし、自力での立位が困難な人は滑り出してその状況から逃れようとする。それを防止するために、ベルトや拘束帯が使われる例が少なくない。

- ① あなたは「車いす」に、1日中座れるだろうか
- ② 「座位保持」の重要性
- ③ 「座る能力」に応じた座位保持の方法

(別紙参考資料参照)

5. 次回会議開催予定日

2021年4月23日(金) 14:00 開催予定